

チョウセンアカシジミ

- ◇ 指定日 昭和59年1月23日(旧田老町)
昭和61年7月1日(旧宮古市)
- ◇ 所在地 田代川・神田川・摂待川流域

チョウセンアカシジミは、その名前のとおり朝鮮半島で最初に発見され名付けられました。シジミというのは、しじみ貝が開いた状態の形や大きさに似ているチョウの仲間のことで、アカシジミは小さな赤いチョウという意味です。

6月下旬から7月上旬頃に羽化し、体長は約35～40mmになります。

国内では岩手県、山形県、新潟県の一部にしか生息しておらず、岩手県では、沿岸北部の宮古市から久慈市にかけて、内陸の雫石町、滝沢村に生息地があります。宮古市では、田代川・神田川・摂待川の流域で確認されています。現在生息している場所を見ると、川の近くの開けた土地で、さらに人の手が入っていて明るい場所に多いといえます。



卵(直径約1mm)